

今年の取り組みは？

良い観光地の条件として、
 ①リーダーの存在②地域住民の理解と協力③アイデアの収集④リピーターの確保（付加価値を付ける）⑤専門家の意見（違った角度からの見方）が必要、かつ重要であるとの観光専門家のアドバイスがあります。

今年度は観光協会を中心に、関係機関が連携して従来の取り組みに加え、昨年同様に島

内外の交流人口の増大と人材育成を重点として取り組みを実施していきますので、町民みなさんも自分の島の良さを考え、協働した良い観光地づくりにご理解とご協力をお願いします。

今年度実施予定の主な事業、また振興策は次のとおりです。

①魅力あるイベントの重要性と実施

楽しく・魅力あるイベント

は人を呼び、楽しかったらまた次に人を呼びます。

創意工夫で島の交流人口拡大を図り、地域の活性化を目指しましょう。



▲初めて開催された「奥尻しまびらき」当日は多くの観光客がこの島を訪れ、イベントに楽しく参加していました

奥尻島観光大使のマダム石井さん(右)と▼歌手の木村香澄さん(左)がかけつけてくれました



提供された島の食材に観光客は大喜び



▼「奥尻しりふり音頭」を観光客も一緒に踊る

●今年初めて「奥尻しまびらき」を開催

奥尻島観光協会、奥尻旅館組合、奥尻調理師会、奥尻町が中心となり、東日本海フェリー、HAC、ひやま漁協、奥尻商工会、奥尻建設協会、航空自衛隊、奥尻中学校、郵便局など幅広いみなさんのご協力により、5月1日に「奥尻しまびらき」を今年初めて開催しました。

光客を港で奥尻らしいおもてなしをするという初の試みで開催されたものです。

会場には町民も多数集まり観光客を含めて総勢約450名が参加し、「焼きあわび」「三平汁」といった奥尻らしい食材を振舞ったほか、奥尻島観光大使のマダム石井さんと木村香澄さんをスペシャルゲストに、「奥尻しりふり音頭体験」「木村香澄コンサート」「お楽しみ抽選会」など、約2時間にわたって楽しいひと時を過ごしました。

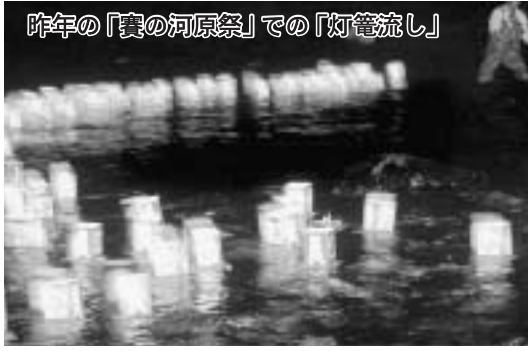
このイベントは、5月1日を海開きならぬ「奥尻島開きの日」として、「奥尻島にこ(5)い(1)」を合言葉に、その日に奥尻島に來られた観

●「奥尻三天祭」、みなさんで参加して盛り上げよう

賽の河原祭

6月22日(金)～23日(土)

幻想的な「灯籠流し」が行われる「賽の河原祭」は、稲穂岬の慰霊の地「賽の河原」に多くの人が集まるお祭りです。6月22日は、最も盛り上がる各小学校児童による子供相撲大会（昨年は残念ながら悪天候で中止）や歌謡ショー、23日には、地元企業や団体に



昨年の「賽の河原祭」での「灯籠流し」

よるソフトボール大会など恒例の協賛行事を予定しており、2日間にわたって「町民参加型」のお祭りとして盛り上がります。

室津祭

7月14日(土)～15日(日)

漁業の町・青苗地区の漁港を会場とした「室津祭」は、7月16日の「海の日」につながる7月14・15日という連休の日程で開催され、例年、島内外から多くの参加者で賑わう盛大なお祭りです。

初日は、歌謡ショーを中心にゲームなどが楽しめる内容の協賛行事が、2日目は、協賛会が中心となって奥尻ならではの食材が食べることが出来る「海の幸三昧」のほか、「ポート漕ぎ大会」や「海上ハッピー渡り」など、地元参加型の行事から、海に関する

の行事や観光客歓迎の行事等が盛りだくさんです。

また、「東京奥尻島人会」をはじめ、毎年このお祭りをめがけて来られる観光客も大勢います。

今年も実行委員会と協賛会が中心となり、アイデアと従来の伝統行事を生かした海のお祭りとして、その運営を進めていきます。

なべつる祭

8月25日(土)

昨年まで2日間で開催されていた「なべつる祭」は、今年8月最終土曜日のみと日程を変更し、町民参加型の産業祭として実施します。

昨年は、お祭りの主旨を考



▶昨年の「室津祭」での「ポート漕ぎ」大会の様子。大声援の中で力が入りました

◀昨年の「室津祭」での「海上ハッピー渡り」の様子。仮装した参加者でにぎわいをみせました



昨年の「なべつる祭」での「綱引き大会」

え、もっと地元の大人から子供まで楽しめ、かつ観光客との交流を生み出すお祭りのあり方ができないものか検討を進め、従来の伝統的な行事を残しつつも「参加したら楽しいお祭り」のコンセプトで行事展開した結果、観光客と地域住民が交流をもったお祭りになることができました。今年は一日の開催で新たに取組みますが、より充実したお祭りを目指し、「島屋台」の充実（地元の食材で作られる郷土料理（三平汁など海の幸・山の幸を食べよう）をはじめ、「奥尻しりふり音頭」、各種ゲーム等を企画・チャレンジしていきます。